

令和7年度 富山県農政審議会の概要

1 日 時 令和7年11月25日（火） 9：30～11：40

2 場 所 県民会館304号室

3 出席者 委員19名、代理出席2名（委員数24名）

4 あいさつ（佐藤副知事）

- ・ 現行の富山県の農業・農村振興計画は令和2年度の策定から4年近くが経過。その間、激甚化する自然災害、人口減少と少子高齢化、デジタル化・DXの加速など、富山県をとりまく環境は大きく変化している。
- ・ 県では、こうした状況に的確に対応し、さらなる成長と発展を実現するため、新たな総合計画の策定を進めており、間もなく公表予定。農林水産業については、「生産性が高まり、多くの県産品が国内外で販売されることにより、収益力の高い、担い手に選ばれる魅力的な産業となる」ことを10年後の目指す姿としている。
- ・ また、国では、今年の4月に閣議決定をされた食料・農業・農村基本計画において、農業の構造転換を初動の5年間で集中的に推し進めるとされている。
- ・ こうした中、本県農業を持続可能で稼げる、より魅力ある産業とするために、新たな富山県の振興計画を策定することとした。

5 委員自己紹介

6 議事

（1）組織運営事項

- ・ 会長選任（委員互選）
岩濱委員が図司委員を推薦。他委員の賛同により図司委員を会長に選任
- ・ 職務代理者の指名
図司会長から岩濱委員を指名

（2）会長あいさつ（図司会長）

- ・ もともと農業経済学専攻で、中山間地域や農村政策について、研究や調査活動を行ってきた。前会長の酒井先生ともつながりがあり、富山県内の集落営農などいろいろとご教示いただいた。
- ・ ここ数年の富山との関わりは「ワクワクとやま むらづくり推進大会」の基調講演や「全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま」のパネルディスカッションのコーディネーターなどを務めた。
- ・ 前期の中山間地域等直接支払制度・第三者委員会の委員長も務め、農政と現場をつなぐような仕事をしてきた。その知見を、富山県に役立てるよう尽力したい。
- ・ 母の実家が氷見でお墓もあり、富山との縁はあるが、生産現場はまだまだ行け

ていないので、この機会を通じいろいろ勉強してまいりたい。

（３）新たな「富山県農業・農村振興計画」の策定について

（資料１～資料３－２に基づき事務局から説明）

- ・新たな「富山県農業・農村振興計画」の策定の諮問について（報告）
- ・策定の趣旨、富山県農業の現状・課題
- ・現行計画の概要・進捗状況
- ・新たな計画の考え方、骨子案

（４）委員の主な質問・意見

- ・富山県で耕地面積が維持できている理由や、全国と比較してどうか（おそらく、全国的には耕地面積は減少傾向と思う）を知りたい。
⇒《事務局》富山県の2005年から2020年までの耕地面積の減少幅は、全国で２番目に小さい。水田率が高いことに加え、集落営農組織やその他の担い手に集積が進んでいること、中山間地域等直接支払などの取組みが背景にあると考える。
- ・個人と法人の合併を進め、300ha規模の大規模の経営体を作り、エリア別に作物を分けるなど農業をやりやすい形にするのはどうか。
- ・合併を進めるにあたり、機械導入等への支援をお願いしたい。
- ・農業者自身が力強くなることが必要。付加価値向上もあるが、効率化やコスト削減が必要。
農業者が自走できる状態に。行政が対応しないといけない状況を脱しないと産業として厳しい。
- ・少しずつでも集落営農の法人化、担い手を育てる、農業者自身が切磋琢磨していかないといけない。そのために、農家同士の交流が重要。同じ問題意識をもって、アイデアを出し合っていく、そういう仕組みを整えてもらえたら。
- ・畜産は匂いの問題等でクレームを受けることもある。農業振興地域の役割を社会課題として押し出してもらいたい。農業関係者だけでなく、地域としての視点でどう考えるかが規模拡大や農業振興に重要。
- ・チューリップ球根は、小規模経営、家族経営が多く、後継者が育たないのが一番の課題。どの分野でも同様であると思うのでお互いに知恵を絞ってやっていけたら。
- ・広報活動を積極的に進めて、富山ブランドの知名度アップを図っていただきたい。農産品、何か１つのテーマをし、県を挙げてPRするという計画など、広報活動についてどう考えているか。
- ・中山間地での熊問題について、農業への影響もあると考える。林業とのバランスで

出沒も変わってくると聞いたこともあるが、どのように考えているか。

⇒《事務局》農村・山村に熊を寄せ付けないことが大切。そのために、農業・林業の振興が大事。林業と連携してセーフティーゾーンの形成を考えていきたい。

- ・自分自身は農業が大好きで何時間でも畑にいられるが、霞を食って生きているわけではない。稼げる農業の打ち出しは大変良いこと。具体的にどのような経営（作目、面積など）を「稼げる農業」と考えているのか。

⇒《事務局》現行の県農業・農村振興計画の中でも、タイプ別に所得目標や経営モデルを提示している。新たな計画でも、目標金額やその他意見をいただきながら新たな経営モデルを提示したい。

- ・近年の極端な気象条件により、果樹農家は四苦八苦しているが、県の関係各位の指導により収穫を迎えられ感謝している。農家の人づくりも大事だが、県の人づくりも大事。普及指導員の削減などないようにお願いしたい。

- ・限界集落で活動しているが、外部と地域の人たちの連携が大切。地元の人あまり素敵だと思っていない、「だれが来るの？」と思われるところに、県外からお客さんがやってくる。外から入って来た人が地域の魅力を発信する際に、自治会との連携がなかなかとりにくいのが課題。自分自身も、今は応援してもらっているが、時間をかけて信頼関係を築いた。地域でスムーズに地元との連携がとれるようになれば、もっとたくさん農村の魅力が伝わるのではないかな。
- ・地域の高齢者が元気だということに可能性を感じている。農業に携わっている人は健康寿命が長い。都会の高齢者がリハビリがてら中山間地に来るような、「健康」と絡めた農泊を考えている。

- ・骨子案について、「消費者が生産を支える機運の醸成」が項目立てされ、「行動変容の促進」という踏み込んだ記載に驚いた。
- ・消費者は、安全・安心、かつ富山県内でつくられたもので適正な価格であれば買う。合理的な価格形成への理解推進について、どのように価格が決められたものか伝えることが重要。
- ・米の生産コスト上昇を伝えるチラシは非常にわかりやすく、消費者協会でも活用させていただいたが、流通・小売りまで含めたコストの見える化が必要。
- ・地産地消の意識について、消費者協会で1400人調査に調査したところ、地元のものを優先して買う人の割合は37%であった。理解醸成には広報を続けることが大事。県消費者協会も一緒にできることを取り組んでいきたい。

- ・土地改良区と意見交換していると、用排水路、農地の老朽化の声が聞かれる。基盤整備の要望も多く、40～50地区が順番待ちをしている状況。
- ・米価高騰で、高収益作物作付けの必要性認識が低下している。どのような営農計画を立てていけば良いかを新たな富山県農業・農村振興計画で示していただければ、

地域と話をするときの指標となる。

- ・「中山間地での省力化」の具体的な例示、整備することのメリットを記載してほしい。
- ・目標指標の、「地域における農業水利施設の保全体制が構築された割合」について具体的に何がわからないので、イメージできる表記にしてほしい。
- ・自分自身もいろいろチャレンジしているが、スポットワークの活用、農福連携の成功例がまだ見えていない。農業は技術がいる産業で経験のない人に任せられる仕事が少ない。
- ・稼げる農業が強調されているが、半農半Xのように、稼げるよりも自由楽しく農業をやりたいと移住してくる傾向もある。大規模化以外の形の方向性も盛り込んでもらいたい。
- ・高齢化で農業を辞めたい人が多く、近隣担い手の引き受けも限界がある。規模の小さい農家を引き継ぐマッチングの場・システムがあると良い。
- ・卸に出荷するほどの量がない半農半Xや規模の小さい農家が直売所に出荷する際のサポートがあれば、直売所の品揃えバリエーションも増えて良い。
- ・10年後、20年後、こども達が誇りを持ち楽しんで農業に携われるような方向性が必要。人づくりを支える方々、先生や教育者がどう伝えるかが大きな意味をもつ。
- ・農業教育がうまくいっている学校は、地域の農家などが熱意をもって取組んでいる。手弁当でやっているのが実情なので、何かしらサポートがあれば、より農業の学びが進むのでは。
- ・先日、県森林政策課と協力して学生の森林体験を行った。森林に行ったことがある学生はほとんどいなかったが、もう一度行きたいという割合は高かった。
- ・計画案を拝見して、すごく細かいところまで網羅されていて、すばらしいなという感想。
- ・「小さい頃から農業に親しむ教育や継続的な経験の提供」について、これからを担う子供たちにどんな農業体験が良いかなと考えることがある。高校から何か農業体験できないかという話もきけているが、体験希望者と提供者をマッチングするようなところがあれば良い。
- ・「他産業との人材シェア」について、とても良い取組みだと思う。自社でも収穫の際に親会社から手を借りている。〇人お願いしますというとすぐに人数が埋まる。具体的にどう進めるか疑問なところもあるが、ぜひ実現できれば。
- ・目標指標を販売額で設定すると価格に左右される。米の値段が急騰したこともあり、目標は生産量で示した方が良いのではないかと。
- ・農業経験のない東京の方からの就農希望があった。移住支援金100万円はあるが、生活の保障ができない。人材の確保・定着には家族で移住してくる方に対する支援

が必要なのではないか。

- ・新規就農者数の増加について、東京で行われた「新・農業人フェア」に農林水産公社と富山市がブース出展した。そういった取組みとも連携しては。
- ・10年後、担い手に選ばれる産業とすることが大事。
- ・中山間の熊対策など人材不足については、藪の刈り払いなどの里山整備など、農業に限らず全体で考えていかないといけない。農政以外への提案・提言も必要。
- ・クマ問題は農山村全体の環境の底上げが必要。
- ・猟友会にはいくつもの支部があり、それぞれ組織の成り立ちやお金の使い方、狩猟のやり方が異なり、情報共有もなされていない。
- ・行政でヒアリングを行い、共通のマニュアルを整えるなど、新しい人が入りやすいように調整できないか。基本的なベースづくりが必要。
- ・ジビエの利活用とあるが、その前段階として活用できる体制の整備が不足している。新規の方向けに、解体の研修、施設に必要な要件を教えるなど、人を育て筋道を与える支援が必要。
- ・水稻に比べ必要な面積や機械等の初期投資が小さいこともあり、園芸にとりくむ若い生産者が増えているが、必要な時期に手が足りないなどで失敗して、うまくいかない例も多い。ここに対して早急に対策をうってほしい。
- ・「富富富」はくず米が多く稼げないことが生産拡大のネックになっている。ブランド米ではあるが、「コシヒカリ」との差額も500円と小さい。
⇒《事務局》くず米が若干多いのはご指摘のとおり。改善のため、地域にあった栽培技術や専用肥料の改良、品種改良を進めているところ。
- ・小規模農家は安価な家族労働力に支えられていた。法人は人件費の負担が大きい。担い手に対する支援が必要。
- ・食料を生産する側と消費者で目標は同じなのに、良いとする値段が違う。消費者が「生産」を支える機運の醸成については、日本国民全体の課題として問題提起が必要。
- ・海外では「富山」そのものの認知度が低い。高山で訪日外国人に行った調査でも富山の知名度低かった。
- ・観光と食は密接にかかわっている。富山には観光もあり、食もすばらしい。観光と連携したブランディングに継続して取組んでいくことが必要。
- ・食関連消費の拡大が稼げる農業につながる。訪日客だけでなく他県からの観光客も含め、インバウンド需要が重要。目標指標としても必要ではないか。
- ・輸出を所得向上につなげるための地域的テーマとして伏木富山港、富山空港を使ったコンテナ輸出も大事。インバウンドと輸出は分けて考える。

- ・市町村にできることは限られているが、知名度・イメージアップ、郷土愛を育てることが必要。入善町にしかないジャンボすいかや県の花でもあるチューリップをどう守っていくか。
- ・休耕田を荒廃農地にしないように。なんとか資源として活用できないか検討している。
- ・農業者同士の情報交換ができておらず、隣の集落が何をやっているかわからない状況。その中で広域連携を進めるのはなかなかハードルが高いのではないかな。

《農林水産部長》

- ・合理的な価格形成について、国の方で流通経費を含めたコスト指標を作成しているところ。しっかりとご説明・周知していきたい。
- ・施設整備の目標指標について、具体的にわかるように記載したい。
- ・移住、半農半Xについて、「多様な農業人材の活躍」の中で具体的に示していく。
- ・農業体験は消費者の理解につながる重要な取り組み。県で網羅的に把握しているわけではなくマッチングまでは難しいが、受入農家の掘り起こしなど考えていきたい。
- ・他産業との人材シェアについて、富山あぐりマッチボックスの中で長期間のアルバイトも受け入れられるので、入口の一つになると考えている。
- ・移住者の家族への支援について、全県的にどの程度ニーズがあるかをまず調べてみたい。
- ・猟友会について、生活環境部と情報を共有し対応を検討したい。
- ・食と観光セットでのブランディングについて、「食のとやまブランドの推進による消費・販路・輸出拡大」の中で示したい。輸出は、生産振興としっかり結びつけてやっていく。

【図司会長】

- ・次期計画に求められるものの1つが「主体間交流」ではないか。農業者間でも交流が足りてない、集落営農間で連携がとりづらい、消費者と生産者の交流が必要だという意見があった。主体間で直接関わっていくような場面を掘り下げていく必要がある。
- ・次世代、子供たちに向けてのまなざしに対する声もたくさん頂戴した。K P I に数字として出てくるものではないが、計画の内容にしっかり盛り込んでいく必要がある。
- ・委員の皆さんからのご意見を事務局で検討のうえ計画に反映いただきたい。

（５）農業振興地域整備基本方針の変更について

（資料４に基づき事務局から説明）

- ・国基本方針の変更に伴い、県基本方針の変更作業を実施中。
- ・県農政審議会の審議事項であり、２月頃に委員へ書面での意見照会を予定。

7 閉会（佐藤副知事）

- ・長時間にわたり貴重なご意見、熱い思いをいただき大変ありがたい。時間が足りなかった方もおられると思うが、皆様の思いはしっかり受け止めた。
- ・いただいた中で具体的な提案については、できるものは来年度すぐに対応していきたい。また、既存の支援もあるので、活用できるようにお知らせしたい。
- ・今後の方向性に対する貴重なご意見を踏まえ、新たな計画の素案について、時間をかけて検討してまいりたい。